

地震で痛感 水の大切さ

札幌大中・高橋さん 作文の道コンクール入選

【北広島】札幌日大中2年の高橋ひよりさん(13)が、水の大切さを考える「第42回全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」(国土交通省など主催)で入選した。2018年9月の胆振東部地震で自宅が数日にならなくなって断水に足踏われ、不便を感じた経験を踏まえ、節水的重要性を訴えた。

(阿部甲子)

コンクールは「水の週間」(8月1〜7日)に合わせて毎年実施。今回は道内から145点の応募があり、最高賞の優秀賞1点、高橋さんを含む入選4点が選ばれた。

作品の題名は「一秒でも多く節水を」。高橋さんは胆振東部地震の発生後に札幌市清田区の自宅が断水して、風呂に入らず、顔も洗えない日々を過ごした体験を紹介。「蛇口をひねると水が出るということが、当たり前のように当たり前ではないこと」にふと気づいた」とつづつた。

自由に水が使えなくなった経験を通して、水資源は人間や動物が生きていく上で欠かせないものと指摘。その一方で、世界には水不足に苦しむ地域があることに触れ、「世界中の人が数秒の節水をすれば、かなりの量の水が節約されるだろう」「自分のちよつとした行動が、水不足から地球を救うかもしれない」と節水呼び掛けた。

高橋さんは「作文のコンクールで受賞は初めて。びっくりしたし、とてもうれしかった」と話している。

自宅断水 風呂入れず顔も洗えぬ日々



入選 賞状

高橋ひより様

第42回全日本中学生水の作文・北海道地方コンクールにて選ばれたあなたの作文は水についてのお考えや水を大切にする気持ちなどがよくあらわれ、表現もとても認められました。これを賞状とします。

令和二年七月十四日

北海道知事 鈴木直道